

又象学者で、
正家として知
は16冊目とな
声「こちら」、
の研究室」！
特別授業「共
た。大学の外
気象災害で
とにすること
がある気象
やすく伝える
る。「まず
しむ「遊び
、例えば異
を犯罪捜査
、学生の関

気象災害死ゼロを目指す横浜国大教授

筆保 弘徳さん



一方、気象災害で命を落とす人が後を絶たないことに心を痛めてきた。異常気象が人間の想定・想像を超えていく時代。災害大国で生きるには正しい知識、危険を避ける判断力がある。だが今はまだそれらが足りない。
一因は大学入試にあると考えている。気象学を含む「地学（地球科学）」を受験科目に入れない大学が多く、結果として多くの高校が生徒に生物、化学、物理のいずれかを

選択させている。そもそも学校に地学専門の先生がほとんどいない。例えば、東京都教育委員会は、中学・高校共通理科教員の募集を「物理・化学・生物」に限っている。
「高校で地学を学んだ人が増えれば、社会全体で危険を回避する力が高まる」かもしれない。でも一朝一夕には変わらない。それなら本を書き、「つなぎ」にしようと考えた。気象学を理学部などでなく、教育学部で教える立場ならではの発想だろう。岩手県釜石市出身、岡山市育ち。44歳。
— 随時掲載

時の人

初優勝したブリックスのメンバー



「必要なのは空を楽しむ「遊び心」」

きた」と喜んだ。
打線に火を付けたのは悩める主砲だった。今大会無安打だった先頭の志垣進が初回にいきなり二塁打で出塁すると、中軸も続いて3点を先制した。本来はクリーンアップだが、指揮官の計らいで一番に入った39歳は「新鮮な気持ちでスイングできた。」

きた」と二回には犠飛で打点も稼いだ。
二回以降も打線は活発で、相手の女性投手を攻略して8得点を奪った。最古参で54歳の内藤文紀は「初回の志垣のヒットでベンチが盛り上がった。負ける気がしなかった」と勝利の余韻に浸った。

あすの試合

【一般の部】◇本戦2
回戦▽浜線 (株) 竜翔 G
ススキ熊本▽城山 保証
協会▽正木工業▽坪井川
ニッサン P-ロジャ
ス▽新地 熊本酸素 (株)

「人生変えた15歳の久住登山」など33のエピソードを

読み終わると、気がついたら元気が出てきた。

熊本日日新聞の読者ひろば面「わたしを語る」に掲載した登山専門店「シェルパ」創業の阿南誠志「自然と共に」を書籍化。山村留学、海外登山遠征、登山技術を生かした災害支援など「自然と共に育ち、共に生きる」をモットーにした人生の軌跡。

共に
「共育・共生」

熊本の各販売センター、熊日支社・総支局、または熊日出版(74)へ。熊日出版Webサイトからもご注文いただけます。談も受け付けております。を除く、平日9時～17時まで

【熊日出版Webサイト】 <https://www.kumanichi-sv.co.jp/books/>
【blog】 <https://www.kumanichi-sv.co.jp/books/staffblog/>
【twitter】 @book_kumasv

熊日出版 検索

サイトにて書籍情報やスタッフブログ、ツイッター絶賛更新中!!

熊本日日新聞 2020 8/17 (3)